

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1028号
2007年3月18日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

◇3月の代祷・信施奉献先
▽聖公会生野センターのため
(4日)▽教区青少年活動のため
▽いのちの電話の働きのため
▽キッドスクール(幼稚園)のため

▽正義と平和協議会「オウル
リムの旅」報告書頒布 昨秋実
施された大韓聖公会ソウル教区
訪問の参加者報告書』一致と調
和にむかって』が発行され、教区
会当日、教会、議員に配付され
る。また希望者には1部百円で
頒布。照会・申込みは教区事務
所・宣教主事宛に。

▽五本木九条の会(憲法を学
ぶ)第13回講演会『世界の民衆
がもとめまた世界のために日本が
できる貢献とは何か:憲法第9
条』 講師・李民洙司祭(聖パウ

ロ教会副牧師・正義と平和協議
会議長)。3月28日(水)18時
半〜20時半・聖パウロ教会Ⅱ電
話03(3710)6031。
▽礼拝音楽委員会主催「主教
と歌おう!新『聖歌集』」お
話Ⅱ植田仁太郎主教。3月31日
(土)14時〜16時、神田キリス

ト教会。事前申込み不要。照会電
話042(493)7472
(宮崎光司祭・同会委員長)。
▽恒例ランチタイムコンサート
・聖テモテ 3月20日(火)12
時30分、オルガンⅡ小野田未奈
・神田キリスト 21日(水・祝)

今週・来週の予定

3月18日~31日

- 18(日) 大斎節第4主日
外濠G教会協議会(目白)
環状G教会協議会
(練馬聖ガブリエル)
多摩G教会協議会(小金井)
- 19(月) 幼稚園委員会
礼拝音楽委員会
- 21(水・休日)第104(定期)教区会
(主教座・アンデレホール)
- 24(土) 城南G大斎節黙想会
(聖公会神学院)
- 25(日) 大斎節第5主日
下町G教会協議会(神田)
城南G教会協議会(聖アグネス)
山手G教会協議会
(聖マーガレット)
- 27(火) 聖職養成委員会
- 28(水) 教役者レクイエム
山手G牧師協議会
(聖マーガレット)
- 29(木) 教区企画室
フェスティバル実行委員会
信仰と生活委員会
- 30(金) 正義と平和協議会運営委員会

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

私の人生の中で、神様に守られて生きて
いると強く感じたのは、阪神大震災のと
き。西宮に住んでおり、当日は空爆でも受
けたような激しい揺れに襲われた。寝てい
る私の頭の上を本棚が覆いかぶさり、本が
一瞬間空中に浮いて
いるのが下から見
えた。幸いにも一
瞬の後、元に戻
り、家族の誰一人
怪我ひとつせず、
家具・食器も壊れ
なかつた。周りの状況からすれば奇跡とし
か思えない。会社の私の椅子はキャビネッ
トが倒れ掛かってつぶれていた。その直
後、教会で古今聖歌集の386番「神はわ
が力を歌ったときには、途中から涙が出
て歌い続けることができなかつた。」

神様のみまもりの中で

村上道夫

私たちが家族をいつも主の家族の一員と
して暖かく迎え入れていただき、また、私
自身、聖歌隊、信徒奉事者として礼拝の奉
仕ができる「恵み」のなかで教会生活を送
ることができ、日々感謝している。

その地震のときに妻のおなかの中にい
た子どもが早や小学6年生になり、昨年

(東京聖三一教会信徒)

◇人事(囑託委嘱) 4月1日付
司祭 小笠原愛作 小笠原聖
ジョージ教会勤務

司祭 今井丞治 主教座聖堂
八王子地区担当ミッシヨナー
司祭 吉村庄司 滝乃川学園
聖三一礼拝堂囑託チャプレン

【春の教区会、目前に】

今週21日に開かれる春期教区会では、昨年度の諸活動報告・承認審議をし、議案として次の2件を含む案件が見込まれている。

〔括弧内は小紙注記〕

①06年度教区会計(一般・特別・財産目録・収益事業等)決算案承認の件⇨常置委提出「一般会計は予算対比約9百74万円減、97%程度の枠内で:。」
②月島聖公会将来計画検討特別

委員会設置の件⇨常置委提出「東京都からの借用敷地の購入を前提とした資金計画、土地取得後の活用計画などを09年度3月以前に議案提出させる目的とする特別委員会設置案。」

常置委員会報告(3月6日)

*全聖公会首座主教会議の報告を主教会で受けた、東京教区の志願者2人が神学院入学を許可された、など主教報告。

*財政委員会提案の東京教区事務所資金運用管理規程を承認。

*真光教会用地の土留め工事実施報告を受領。

*教区審判廷審判員を推薦し、教区会議案として提出する。

*各主事報告を了承(項目掲出割愛)。その他。

《今、この教会では:》

清瀬聖母教会

広い敷地に恵まれた当教会では、2年前から聖堂前の花壇作りに取り組んでいます。雑草が生い茂った空き地をデイキャンプで耕すところから始め、円形の花壇を一つずつ作ってきました。春と秋に花の苗を植え替えるのは日曜学校の子どもたちです。花の苗代をどうするかは知恵を絞って:。春と秋に計4回「緑の百円募金」を呼びかけることにしました。幸いなことに百鉢をこえる苗代は、募金でまかなえています。中央の花壇以外は、信徒宅から持ち寄せられた多年草やハーブなどを植えて整備中。腐葉土は自前です。主に感謝!
(若森恵子)

【学びと働きから】³⁵

〈新しい聖地旅行を考えるためのエルサレム教区訪問の旅〉報告

北海道、東京、大阪、神戸、九州の5教区から14名が、2月7日から17日まで、「新しい聖地旅行の可能性を模索すること」を目的としてエルサレム教区を訪問した。イエス・キリストのご生涯に関わる場所を訪ね、それぞれの地で神の救いの働きに心を寄せて祈る聖地巡礼に加えて、今日のキリスト者と出会う機会を持つことを、もう一つの目的としていた。

最初の2日間はナザレとガリラヤ湖の周辺で、5千人の養いを記念する場所、復活のイエスが早朝に湖畔で弟子たちと会われた場所、山上の説教を記念す

る丘などを訪ねた。早春の明るい日差しを浴びた湖を中心として、「神の国が近づいた!」こと、その地の人びとに語りかけられたイエスのメッセージに心を向けた。湖と野原と丘が続く風景の中に、その後の十字軍の歴史も、1948年前後に破壊された村の歴史も重なっていた。

ローマ時代の都市カイサリヤを経由してエルサレム市内と近郊、6日間はエルサレム市内と近郊、ベツレヘム、ラマラ、エリコ、アブゴーシュ(エマオと考えられている町の一つ)などを訪ね、丁寧な聖書的、神学的、霊的解説を受け、恵み豊かなときを与えられた。プログラムの中にはパレスチナ問題について、イスラエル・パレスチナの両側から和平プロセス

をどうとらえるかという講義が含まれていた。パレスチナの人びとの生活を寸断していく隔離壁がほぼ完成しつつある今、緊張はさらに高まるだろうという印象を受けた。中東全体の情勢と絡んで予断を許さない、息詰まるような日々が過ぎているという実感を与えられた。

残念だったのは、現地の教会訪問、会衆との交流が実現しなかったことである。主教交替直前という時期に当たり、エルサレム教区内の事情がそれを許さなかったと考えられる。今後は4月15日に着座される新主教の体制で、積極的な交流の場が開かれていくことを期待したい。

エ教区訪問団团长

司祭 山野繁子